

# 関電のズサンな品質保証体制糾弾！MOX燃料契約を破棄せよ！ 大飯3号压力容器上蓋管台冷却水漏れ事故について抜管調査せよ！

日本で唯一、MOX燃料基本契約まで行ってプルサーマル計画の先頭を行く関西電力は、相次ぐ不祥事等によって原発推進の現体制に重大な事態を招きかねない局面にたち至っています。

関電の11箇所もの火力発電所等でデータ改ざんなどの不正が暴かれ、電事連が10年前に行ったバックエンド試算を隠してきたことも明らかとなっています。信頼のなくなった関電にプルサーマル計画中止の声を集中させましょう。

## 火力でのデータ改ざんも許せない

関電が6月28日に発表した87件の火力発電所でのデータ改ざん・ねつ造は、保安日誌の出力データ改ざん(堺港)、熱交換機の水質データねつ造、品質管理会議の議事録ねつ造(多奈川2)、タービンの検査記録の改ざん(姫路2)、計測値改ざん(赤穂)、ボイラー用通風機の羽根の軸水平度管理基準値書換え(海南)、主タービン等で保安装置試験記録ねつ造(御坊)と報道されているように、目を覆うり様です。

和歌山支店長は自治体への説明に追われていると報道されています。

海南ではモーター軸の水平度が管理値を満たしていなかったため管理値を勝手に変更して記入。御坊では保安装置の月例テストを3ヶ月分実際に行ったかのように記録をねつ造。昨年8月5日テスト無しで稼働後、8月19日以降になって技術者から指摘された担当者が、記録をねつ造。同支店は「担当者の引き継ぎ不足でテストしたと勘違い」との説明。

データ改ざんは当たり前？

関電は4月28日近畿経済産業局から関空エネルギーセンターと他の火力発電所の不適切事項について報告徴収の指示を受け、5月31日報告したところ、それらの報告徴収の追加指示を受け、6月28日に同局に報告書を提出しています。

2000～2003年度分の定期事業者検査(昨年10月の電気事業法改正で「定期自主検査」から改称)を調査したところ、上記の87件を含め、帳簿作成時期の遅れ、誤記、転記ミス等で、関空エネセン等11発電所等の記録14521枚から3572件もの不正処理が判明しています。

これは関西電力社内にデータや記録の「不正処理」を容認する「文化」が蔓延していることを如実に示しています。

6月28日午前11時に取締役の藤井火力事業本部副事業本部長ら3名は記者団の前で、上半身を90度折り曲げて、深々とこうべを垂れましたが、こうした「文化」を醸成してきた責任をどのように考えているのでしょうか。

「ルール順守の意識の低さがあった」意識・風土の問題点があった」・・・夕刊に踊る関電側の弁明は、1991年の美浜2号SG細管破断事故後の釈明とそっくりです。あとき関電は本社横の関電ホールで、市民側から2度にわたる徹夜の追及を受け、深々と謝罪したのです。

何ら変わらぬ関西電力の本質を見る思いです。いや、その腐朽ぶりは一層深刻化しているのです。

このように口先で「安全文化」を語る一方で、それとは反対の不正をはたらく関電に、原子力を扱うことは許されません。機器や核燃料のわずかな誤差や不具合が、核暴走や炉心溶融など

の重大事故に結びつく原子力を運転する資格は、関電にはありません。プルサーマル計画は中止すべきです。

関電はMOX燃料基本契約を破棄せよ

MOX燃料の基本契約を3月31日に原子燃料工業、コムックス社と結ぶのに先立ち、同26日「海外MOX燃料調達今後の進め方について」との文書を関電は発表しました。

昨年10月に事業者に品質保証活動を義務づける安全規制が導入され、保安規定に品質保証計画を明記することになったと経緯を紹介し、原子燃料部門のみで対応していたBNFL問題を反省し、添付 - 3の体制のとおり社内他部門も含め、社内コミュニケーションを図りながら進めていきます」として全社的な取組みを打ち出しています。基本契約、本契約、初期製造、海上輸送の各段階にホールドポイントを設定し、「それまでのプロセスの品質保証活動を確認し、社長の承認を得た上で、次のプロセスに進みます」と改善策を紹介しています。

本契約前には関電はシステム監査を行うことになります。

日本で唯一具体的に進める、関西電力のプルサーマル計画を中止させよう

このホールドポイントでの品質保証活動の確認がきわめて重要となっています。今回の不正事件によって、関電自身が品質保証そのものを掘り崩し、その基礎となる各データの信頼性を無くしてしまったのです。3月26日の文書「…進め方について」を実践に移すことは、もはや関電にはできないという真実が白日の下にさらされたのです。コジエマなど他社の品質保証を云々する立場にはないのです。信頼を失った関電にどのような「システム監査」ができるのでしょうか。

MOX燃料加工の本契約に向けた作業を中止し、基本契約を破棄すべきです。

8月2日に関電交渉を予定しています。この交

渉に参加して下さい。ともにこの点を厳しく追及するよう呼びかけます。

大飯3号事故で漏洩した管台を抜管し事故の徹底究明を！

大飯3号の上蓋管台2箇所からの1次冷却水漏れ事故については、関電から5月6日に漏えい箇所の写真と図面が発表されて以降、調査結果等に関して2ヶ月以上、一切情報が発表されていませんでした。

7月9日突然、関電はその調査結果を発表しました。それによると、漏洩事故を起こした2本の管台のうちN67については、溶接箇所に貫通した割れがあるとの見解です。N67については試運転時の漏れの跡だとしています。

しかし、2本の管台本体の調査は行われておらず、2本の管台を抜管し、1次冷却水が圧力容器漏れ出してホウ酸が結晶化した部分を徹底調査する必要があります。

管台そのものの貫通亀裂であれば、日本のPWR全ての停止と原因究明が必至となり、BWRをも含めた全原発の停止も見据えた措置が課題となってきます。

8月2日にはこの点も追及する予定です。大飯3号事故において冷却水漏れを起こした管台を抜管し、徹底した調査を行うことを関電に求めましょう。

関電本社の交渉に御参加ください

今回はコスト問題でも、政府の最近の動きを受け、新たな議論・追及となるでしょう。火力発電所データ不正事件、プルサーマルのMOX燃料契約問題、大飯3号事故、電事連コスト試算隠しなどを追及します。各地でうごめく、中間貯蔵施設立地策動についても、関電に立地させないよう圧力を加えましょう。多くの参加者で放射能まみれの原発・核燃料サイクルの抱える諸問題を具体的に追及していきましょう。